

<p>【キャッチフレーズ】</p> <p>笑顔・花・命</p> 	<p>奄美市立大川小・中学校</p> <p>学校だより大川</p>	<p>【校訓】</p> <p>勉学・協力・根性</p> <p>令和元年 8月 21日発行</p> 
---	-----------------------------------	--

戦争のない国（戦後 74 年、日本の未来は？）

校長 前田浩之

セルビア人でカメラマンの若者が私たちに見せたのは、彼の故郷ユーゴスラビアの首都ベオグラードの美しい写真でした。その写真では私が住んでいたローマよりも緑に溢れ整然とした街並みが、ライトアップされた噴水の周りに座する若者たちの笑顔が、幸福を物語っていました。

私がローマ日本人学校に赴任した 1991 年は、サダム・フセイン政権のイラクによるクウェート侵攻から始まった湾岸戦争には、終焉の兆しが見えたものの、イタリアとはアドリア海を挟んだ対岸にあるユーゴスラビアで出口の見えない内戦が始まった年です。一つの国家に五つの民族と四つの言語があると言われたユーゴスラビアには、民族同士の悲惨な虐殺の歴史があり、カリスマ性のあるリーダーが亡くなった後、当然のように民族紛争が始まったのです。ローマには NATO 軍の基地があり、連日のように戦闘機が飛んでいました。テレビでは市場に打ち込まれたロケット砲の犠牲者の無残な姿が、ダイレクトに映し出されていました。



ベオグラードの美しい写真を見せたカメラマンは、夏休みに通ったイタリア語学校の仲間でした。生きる場所をイタリアに求めてきたのです。こんなに美しかった故郷の街が、今は無残ながれきの山となってしまう。やるせない表情の彼に、私はかける言葉が見つかりませんでした。

二学期には娘の通っていた日本人幼稚園の先生が、人道支援にあたる夫とともにユーゴスラビアへと旅立ちました。どこの街に行くのかと心配になり尋ねると、有名な観光都市ベネチアから、ほんの少し東へ進んだ街(現在はスロベニア)でした。世界中から観光客が集まる世界遺産の街のすぐその先に、紛争地帯があったのです。ヨーロッパでは、日本にいた時よりも戦争は身近にありました。

太平洋戦争の終結から 74 年経ちます。74 年間、平和が続いているということです。日本がこれだけ長く平和を維持できているのは、太平洋戦争への反省と、穏やかさを好む日本人の気質に依るところが大きいのかも知れません。戦争に勝者はいません。どちらにも大きな犠牲が伴うのです。

虐殺に虐殺で対抗するセルビア人とクロアチア人、過剰な民族意識と復讐心が戦火を拡大することはユーゴスラビアが物語っています。だから昨今の冷え切った日韓関係を過剰にあおるような報道に、私は少し危機感をおぼえます。外国人が普通に日本に住み、日本人よりも日本の文化に精通している人も多くなりました。彼らが日本を好むのは、何よりも平和であることが安心感を与えているからだと思えます。この平和が未来永劫続きますようにと、願わずにはいられない「終戦の月」八月です。

夏の子どもたち

鹿児島県中学校総合体育大会

(県のレベルを体感)



着衣水泳 (講師は海上保安部のみなさん)



沈まないために手の位置, 呼吸, コツがあります。



夏休みもあと少し, 事故が無いように!

奄美市小体連水泳記録会



子ども会納涼大会 (今年も盛り上がりました)



9月 主な行事予定

9/ 1(日)	PTA奉仕作業
9/ 2(月)	始業式 中3実力テスト PTA役員会
9/ 4(水)	小学校学級PTA
9/10(火)	鹿児島大学吹奏楽部演奏会
9/11(水)	運動会予行
9/14(土)	土曜授業 (運動会準備)
9/15(日)	第72回運動会 (雨天順延)
9/29(日)	小湊小学校運動会